

「平成 29 年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線

モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ」

議 事 概 要

日時：平成 29 年 11 月 1 日（水）9：30～15：30

場所：足寄町町民センター2 階会議室

出席者：《ワークショップ参加団体》

団 体 名	氏 名	備 考
足寄山友会	田村 勝夫	
帯広ウチダザリガニ・バスターズ	鏡 坦	
川と河畔林を考える会	高倉 裕一	
十勝川水系の生態系再生実行委員会	石垣 章	懇談会構成員
十勝自然保護協会	川内 和博	
NPO 法人 十勝多自然ネット	加藤 滋二	
日本野鳥の会十勝支部	飯嶋 良朗	懇談会構成員
雌阿寒自然塾	岩原 榮	

《有識者構成員》

氏 名	専門分野	所属等
加賀屋 誠一（座長）	自然災害科学、都市工学	北海道大学 名誉教授
持田 誠	植物	浦幌町立博物館 学芸員
飯嶋 良朗	鳥類	日本野鳥の会十勝支部 監事
石垣 章	淡水魚類	十勝川の生態系再生実行委員会
澤村 寛	地質	足寄町動物化石博物館 館長

《有識者構成員欠席者》

柳川 久	野生動物管理学	国立大学法人帯広畜産大学 副学長
山本 純郎	鳥類	環境省シマフクロウ保護増殖委員

《オブザーバー》

氏 名	所属等
村石 靖	足寄町役場経済課 主査
岩淵 堅志	足寄町役場建設課 室長
安藤 祐樹	環境省 釧路自然環境事務所 阿寒湖自然保護官事務所 自然保護官
三間 武	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 主任森林整備官

《帯広建設管理部》

氏 名	所属等
木原 俊哉	本部 事業室長
塩田 雅史	本部 道路課長
後山 英俊	足寄出張所 主査
三橋 祐介	足寄出張所 主任

## 【ワークショップ議事概要】

1. 開 会
2. 参加者自己紹介
3. ワークショップ設置要領について
4. 帯広建設管理部事業室長よりあいさつ
5. 避難路の必要性について
6. 事業概要
7. 懇談会開催状況
8. 自然環境調査結果概要説明
9. 道路線形検討結果及び保全対策案
10. 懇談会開催結果
11. 意見交換会
12. 閉 会

## ワークショップ 意見交換会

1. **山友会**：ヒカリゴケが道路計画とどのくらい離れているか、道路を作ることで影響がないのか現地に行って見て確認したい。

**建設管理部**：平成 28 年度段階の設計よりヒカリゴケから 78m 離して道路設計を直している。また、地下水への影響については、地質縦断図から見てほとんど影響はないと考えられるが、今後のボーリング等による調査で確認したい。

**座長**：ヒカリゴケの生息場所はきちっと避ける、水等の影響を調べていく方向で考えるということです。

2. **帯広ウチダザリガニマスターズ**：日本ザリガニに関しては地図の距離から見て問題はないと思う。ただ、大規模な工事のようなので踏査する機会があれば参加させていただきたい。

**建設管理部**：調査等の必要が出てきたらヒカリゴケ等の踏査も含めて検討したい。

**座長**：ぜひ参加してください。

3. **川と河畔林を考える会**：火山噴火のハザードマップに計画道路を重ねた場合、避難道路と周辺にどのようなことが想定されるか。またそれは、最大規模の噴火に対するものであるべきではないか。そして避難道路の方向が火砕流等が流れる方向と同じでいいのか。

**足寄町**：噴火による噴石が半径 2、3 キロの所まで飛ぶと想定すると、野中温泉等が含まれる地域には噴石が飛散する恐れがある。突発的な噴火があった場合、現状ではオンネトー湖畔から野中温泉への、火口へ向かうルートしかない。火口から離れるルートとしては今回環境調査している方に逃げざるを得ないだろう。そうすると非常に通りづらくスムーズに避難するのが困難になるため整備をして頂くというのが町としての考えです。最大限の被害を想定して避難路があるべきだというのはその通りだとは思いますが、現状できうところで、実際頻度としても起こりうる範囲内でも国立公園内で環境を保全しながら避難路を確保すると考えたところでは、現状このルートを避難路として整備するのが先決だろうと考えます。そして以下の 4 つを整備の目標として考えています。1 つ目は狭隘な幅員を解消して避難時のスムーズな走行、あるいは U ターンを可能にする。2 つ目は噴石エリアを経由しなくても避難可能なルートを確保する。3 つ目は道路が寸断され孤立する可能性があるため、迅速に避難ができるルートを確保する。4 つ目は噴火状況に対応できるように、オンネトー湖中心に両方向へ避難できるようにする。

**座長**：規模の大きな噴火を避けるという形でルート選定する考え方もあるが、もう一つはより素早く逃げるという前提がある。大きな火山活動に対してどの程度までこのルートを使って逃げられるかどうか、シミュレーションをこれからしていかなければならない。後は実際どうやって運用していくかという所がポイントとなってくる。大規模な噴火の時に何をこのルートを使ってやるか、どのような形でこの道路を使って観光客や住民が避難することができるかという所を考えておかなければならない。今後ワークショップで議論していくテーマになると思います。

4. **十勝川水系の生態系再生実行委員会**：現状の川を見て、改めて魚類の生息は難しいと再認識した。
5. **十勝自然保護協会**：ワークショップでの議論は今後の道路計画に反映していくのか。時間的に余裕はあるのか。今後の計画はどのようになっているのか。工事後の環境調査はきっちりやっていただきたい。また、工法という技術的な面、とくに法面の切盛土について議論していただきたい。

**建設管理部**：頂いた意見をもとに追加調査が必要であれば再度検討させていただく。修正がきかないという段階ではありません。また今後については、環境調査、地質調査を踏まえ道路の計画ができた時点で、国に要望し事業化に向けるという形です。現在、測量や地質調査をしているので順調にいけば平成 32 年近くです。

**座長**：比較的調査の段階に時間をかけて行けるのかなと思っています。基本的には議論の結果についてはそれを生かした形で反映させていくことになると思っています。しかし最終的には避難道路をどのように作るかという議論が前提ですのでそこに到達しなければあまり意味がない。そのような方向に向かってしっかりと議論するのが必要となってくると思います。

6. **NPO 法人 十勝多自然ネット**：工事により環境が分断された場合、生態系に影響がないような形で考えていただきたい。また道路側溝についてはトラフありきでなく、場所に依じて素掘りなど環境に配慮していただきたい。そして観光と環境が共有できるような道路づくりをしていただきたい。

**建設管理部**：側溝については、溶岩という地質で水の浸透が早いということで、今後検討してみたいと思います。

**座長**：自然環境の保全措置については、ワークショップの中でもいろいろと出たアイデアを具体化していくことが必要だと思っています。環境と観光については、道路供用後にもメリットデメリットについてフォローアップしていかなければならない。道路を維持していくには道路の調査等をフォローアップしていくことが必要になってくると思います。

7. **日本野鳥の会十勝支部**：鳥類の調査については十分であろうと思う。しかし、工事後についても調査し、工事前と比較してその影響が分かるようにしたほうが良い。
8. **雌阿寒自然塾**：避難路の課題について整理しながらやっていただきたい。冬季の除雪計画についてはどう考えているか。交通量の増加による夜の光について配慮してほしい。  
**座長**：管理の問題もいくつか出てきました。この議論の中でまとまるかどうかわかりませんが、考えなければならない問題だと思っています。

9. **持田（構成委員）**：維管束植物に関しては、懸念が無い訳ではないが、工事そのものの影響については大きな懸念は現段階ではあまり持っていない。ただ、工事完成後の道路の使い方によっては、外来種の侵入口となるなど陸上植物への影響を懸念している。今回、ヒカリゴケの生育が確認されているが、それ以外にも北海道初記録種や道東初記録種が確認

された。北海道初記録種については、従来北海道になかった訳なので、レッドリストにも入っておらず、現状について何も情報が無い状態での確認という事になる。このほか菌類や藻類などの未調査のものについても懸念が残る。

10. **澤村（構成委員）**：この避難道路の地質的な環境について共有認識するならば、道路は阿寒富士の溶岩が流れたところで、1メートルから数メートルの溶岩の塊の上を通るということ。そして重要なことは、町民に対し火山活動の影響について日常的に発信していくこと。
11. **座長**：地域一体となって最大限、避難を確実に進めるという方向が必要。また先程から指摘があった避難道路についての妥当性についても考えていくということで進めていければと思います。ワークショップは、問題を解決するための方法だと思っていますので、今の計画の道路で避難を完結できるか難しい面もあるかもしれませんが、全体を見て最大限、避難に対してはベストな考え方が必要になってくるというのが一番肝心なことです。ここの議論についてはまた次回においても継続して行っていきたいと思います。

#### 閉会のあいさつ

**建設管理部**：本日は現地視察、意見交換と長時間ありがとうございました。本日頂きましたご意見につきましては、次回開催へ向けて内容の精査をさせていただきたいと思えます。また次回の開催につきましてはあらためて日程調整をさせていただきますのでよろしくをお願いします。

本日はどうもありがとうございました。